



今月も地域の  
々々より聞き取り調  
査で教えて頂いた、  
キャンプ瑞慶覧の  
戦前の様子を中心  
に歴史・文化遺産を  
紹介します。

喜友名グスク

喜友名バス停付近に位置する市内では  
数少ないグスクの一つです。北側から西側  
にかけて自然の斜面を利用し、西南側に正  
門、東側には裏門があり、周囲は野面積み  
の石積み、その内側には五または六力所の  
拝所があったとされています。現在でも喜  
友名集落の聖地として崇拝されています  
が、一九一四年の郡道工事や戦後の基地接  
収等により南側一帯は破壊されてしま  
いました。グスクに関する資料は極めて限ら  
れていますが、北谷グスクとの争いに関す  
る伝承や、周  
辺ではグスク  
時代(約八〇  
〇〜五〇〇年  
前)の土器や  
中国製の焼  
物、建物跡が  
確認されてい  
ます。



喜友名グスク想定図

「キャンプ瑞慶覧③」

いじめこ

フトウキアブ

喜友名グスクから東側約一〇〇mに位  
置する洞穴で、入口がフェンスで囲まれ  
ていることから、県道の歩道からも確認  
することが出来ます。洞穴の入口は二m  
程ですが、内部は瓢箪  
状で幅約一六mの広  
場があり、天井は高い  
ところで約五m、総延  
長は約八五mとなり  
ます。喜友名グスクに  
つく聖地として崇拝  
されています。



フトウキアブ入口外観

新城下殿遺跡

新城出身の民俗学者である佐喜眞興英  
が明治大正時代の新城集落の民俗風  
習等を取りまとめた沖繩で最初の単一村  
落の民俗誌である『シマの話』には「新城  
の発祥は現在の場所から西北方約五〇〇  
mの字新城小字下  
原の丘陵にあった  
七戸から」と書かれ  
ています。現在でも  
屋敷囲いの石垣や  
石畳道が残ってお  
り、南側に残るシン  
バルガーの湧泉と  
併せてかつての集  
落の面影を今に伝  
えています。



新城下殿遺跡遠景

問合せ・文化課 ☎89314430

茶ぐわーゆんたく

115

市制と共に歩む作品たち

秋と言いますと様々な事柄を思い浮か  
べますが、「芸術の秋」もその一つです。例  
えば、自分の身近な芸術に触れてみるこ  
とを、楽しんでみてはいかがでしょうか。そ  
こで今回は、宜野湾市にゆかりのある画家  
與那覇朝大氏(1933〜2008年)の  
作品を紹介します。

まず、宜野湾市民会館の大ホールの緞帳  
には、羽衣をまとった天女を中心に、宜野  
湾市の花木であるサンダンカと戦前に有  
名だった宜野湾並松が描かれています。こ  
れは、1982(昭和57)年の市制施行20周  
年にあわせてデザインされた作品です。翌  
年に行われた落成式には、こけら落としの  
儀が行われ、市  
民の皆様が披露  
されました。

次に、宜野湾  
市役所の正面入  
口から入ってロ  
ビーの右上に、  
緑豊かな大地に  
雲間から光がさ  
している風景を  
描いた「光彩」と



宜野湾市民会館の緞帳

この2作品の他に、市民図書館の利用  
者カードに描かれている笛を吹くキジ  
ムナリのイラストや、市民図書館の正面  
玄関から二階へ上がる階段の壁の「民族  
の祭典」という壁画は、與那覇氏の作品  
です。宜野湾市と共に歩んできたそれら  
の作品は、時代を超えて、今も変わらぬ  
光を放っています。



「光彩」(宜野湾市役所一階ロビー)

「宜野湾市史」への問合せ  
文化課 市史編集係(市立博物館内)  
☎87019317

